



中央大学
創立125周年
記念事業報告書



創立 125 周年



2012年4月



募金推進本部本部長／理事長

久野 修慈

本学は、2010年に創立125周年を迎えるにあたり、21世紀に新しい社会を創造する世界に存在感のある大学を目指して、2001年10月に総事業費225億円規模の記念事業計画を策定(2006年に280億円規模に増額修正)し、事業資金のうち100億円については寄付を募ることとし、10年間にわたり募金活動を行うことを決定し実施してまいりました。

この間、リーマンショックを契機とする2008年以降の世界的な経済の停滞と2011年3月の東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故等未曾有の事態に見舞われるという厳しい状況の中、卒業生である学員をはじめ、在学生のご



募金推進本部特別顧問／総長・学長

福原 紀彦

中央大学は、英吉利法律学校として創立された1885年から伝統と歴史を紡ぎ、皆さまからの多大なるご厚志をいただいて、記念事業計画を遂行し、本学の教育・研究環境の整備に努めつつ、一昨年、創立125周年を迎えることができました。そして25年間(四半世紀)を一つのクォーターと称して歴史を数える単位にしますと、本学は新たに第6クォーターを歩み始めたことになります。その新たな歩みを充実感をもってスタートできたことは、まさに皆さまの温かいご支援の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

本学が創立された1885年という年は、第一次伊藤博文内閣が発足し、日本が近代国家として大きな一歩を踏み出した年にあたります。初代校長の増島六一郎先生をはじめ

父母、ご賛同いただいた法人・団体、篤志家、本学教職員の皆さま方等の温かいご支援により、2012年3月末時点において、64億円を上回るご寄付の申し込みを賜り、お陰さまで事業計画のほとんどを遂行することができました。

この10年間にわたる募金活動を通じて、学員の皆さまの母校に対する深い思いと温かいご心情、そしてその思いを理解されるご家族の皆さまの強い絆を知り、中央大学がまさしく大勢の卒業生やそのご家族に支えられていることを感じないではおられませんでした。ご芳志を賜りました全ての皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。

なお、125周年記念事業募金は、2011年9月末をもちお申し込み受付を終了いたしました。既にお申し込みいただいたご寄付につきましては、今後も入金受付を継続させていただいております。

昨年、東日本大震災ならびに原子力発電所事故等により、お亡くなりになられた方、被害に遭われた方に、改めて心から哀悼とお見舞いを申し上げます。

創成期に関わった人びとがめざしたのは、先進的なイギリスのルールを学ぶことを通じて、日本人の精神とコンピテンシーを高めることでした。単なる知識の伝授ではなく、時代に照準を合わせ「**「**實地應用ノ素ヲ養フ**」**ことをめざしていました。私たちは、創立125周年を期に、この建学の精神と、それを現代社会に実践することが大きな使命であることを再確認することができました。

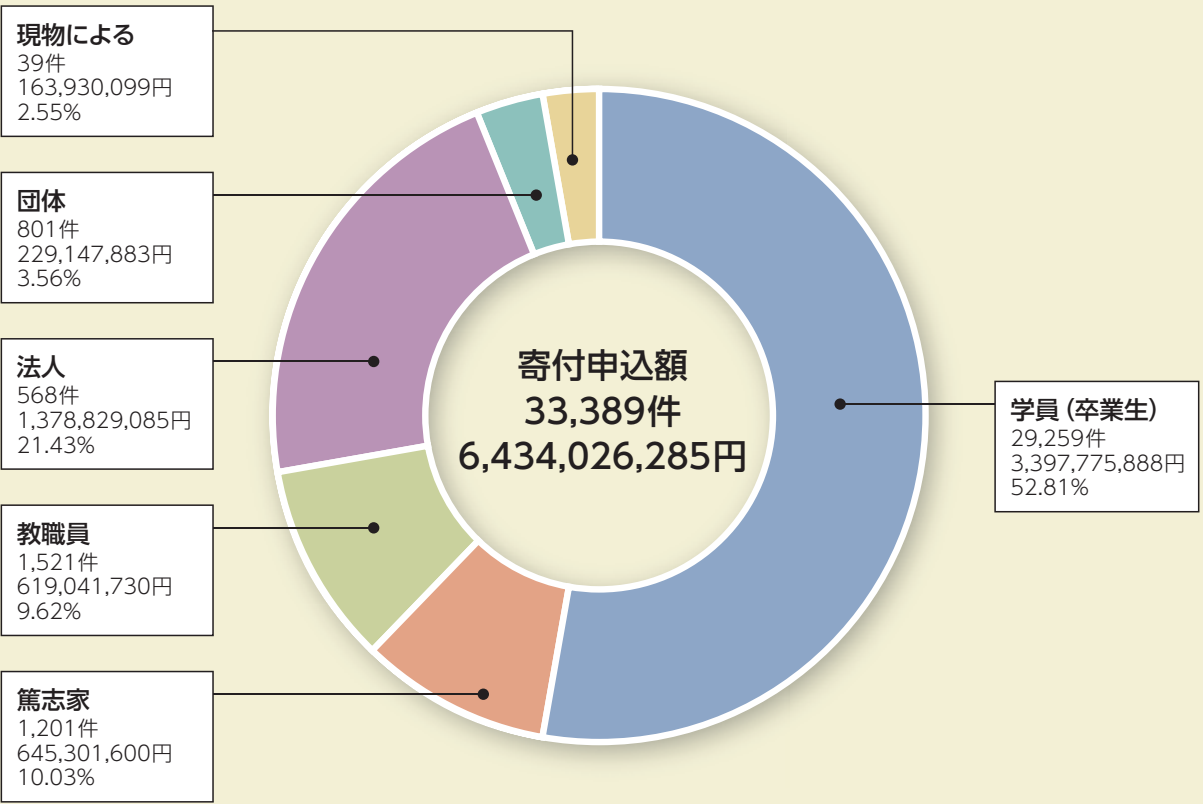
現代はグローバル化、少子高齢化といった社会構造の変化が激しく、また、有限の資源を大切にしながら地球環境の保護を考えていく時代でもあります。このような時代にこそ、「**「**實地應用ノ素ヲ養フ**」**ということを建学の精神としている本学で学ぶ学生たちが、大学における学修やさまざまな経験を通して身に着けた「**知性**」を発揮して、社会において担う役割は今後ますます大きくなるものと存じます。

中央大学では、今後もさらに教育・研究の充実を図り、社会に貢献する使命感をもって、本学でしっかり身につけた「**知性**」を新しい社会の構築のために発揮することができる人材の育成に努めて参ります。

これからもどうぞ変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

創立125周年記念事業募金寄付申込額(平成24年3月31日現在)

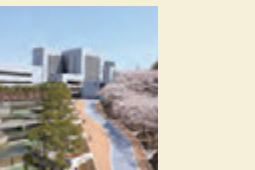
- 目標額:個人60億円、団体・法人40億円、計100億円
- 入金:一括及び分割入金 *分割入金は募金期間終了後も受付継続
- 期間:2001年10月1日～2011年9月30日



創立125周年記念事業計画と募金状況

創立125周年記念事業計画名	募金申込額(円)
①世界で活躍する高度専門職業人教育の拡充及びその教育拠点となる都心キャンパスの整備	1,160,821,201
②理系学部・大学院の教育研究体制の一層の充実、世界レベルの研究交流、産官学共同研究開発の推進	115,079,215
③文系学部・大学院の教育研究体制の一層の充実	135,168,038
④学生のキャンパス生活と課外活動の充実・強化	17,219,000
⑤国家試験に挑戦する学生に対する教育・支援体制の強化、国家試験に強い本学伝統の更なる発展	1,012,088,070
⑥各学部・大学院教育等に対する支援体制の強化と文化・スポーツ活動の充実	1,101,331,325
⑦社会に開かれた大学づくりの推進と大学と社会の交流拠点となるモノレール駅前「グリーンテラス」建設及び「21世紀館(仮称)」の建設	124,814,480
⑧学部周年事業	181,986,521
⑨創立125周年記念事業全般	2,585,518,435

創立125周年記念事業関係と10年の推移

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
●文学部2部募集停止(3月) (法学部、経済学部、商学部、理工学部は2000年度から2部募集停止) ●大学院経済学研究科国際経済専攻修士課程、公共経済専攻修士課程開設(4月)	●募金委員会発足記念シンポジウム(2月) ●文学部2部募集停止による名称変更(一部文学部→文学部)(4月) ●文学部文学科中国言語文化専攻開設(4月) ●専門大学院国際会計研究科開校(4月)	 ●「グリーンテラス」、「白門プロムナード」竣工(2月) (多摩都市モノレール開通は2000年1月) ●中央大学附属高等学校新1号館竣工(3月)  ●(後楽園キャンパス新3号館竣工3月) ●専門大学院国際会計研究科を専門職大学院へ改名(4月)  ●(学生生活関連施設「Cスクエア」竣工4月) ●ファカルティ・リンケージ・プログラム (FLP) 開設	 ●(学生研究棟「炎の塔」竣工7月) ●高額寄付者感謝状贈呈式(7月～)	●大学院公共政策研究科公共政策専攻修士課程開設(4月)	●文学部学科統合(1学科13専攻へ)(4月) ●商学部夜間主コースの昼間主コース移行(4月) ●大学院経済学研究科国際経済専攻修士課程、公共経済専攻修士課程の改組(国際・公共経済専攻修士課程へ)(4月) ●専門職大学院国際会計研究科2コース制導入(国際会計・ファイナンス、会計専門職コース)(4月)	●法学部、経済学部、商学部、理工学部の各2部廃止(3月) ●大学院文学研究科中国文化専攻修士課程開設(4月) ●大学院理工学研究科情報セキュリティ科学専攻博士課程後期課程を開設(4月)	●文学部2部廃止(3月) ●専門職大学院戦略経営研究科開校(4月) ●理工学部生命科学学科開設(4月) ●大学院文学研究科中国言語文化専攻博士課程後期課程開設(4月)  ●(ソウルロースクールシンポジウム6月)	●商学部創立100周年記念公開シンポジウム(3月～10月) ●総合政策学部創立15周年記念式典(3月) ●大学院経済学研究科国際・公共経済専攻修士課程を経済学専攻博士課程前期課程へ吸収・統合(4月) ●理工学部土木工学科名称変更(都市環境工学科へ)(4月) ●法学部昼夜開講制終了(4月) ●125周年記念学術講演会(2009年度43会場、2010年度47会場)(6月～2010年12月) ●理工学部都市環境フォーラム(7月～11月) ●市ヶ谷田町キャンパス取得(8月)  ●(理工学部シンポジウム&パネル展示10月) ●日中法学交流(10月～11月)  ●(商学部創立100周年記念式典・講演会10月)  ●(浮世絵の展示と関連シンポジウム11月～2010年1月)	●附属3高等学校各種記念行事(1月～10月) ●(学生会体育連盟東豊田寮竣工3月) ●(中央大学附属中学校開校4月) ●市ヶ谷田町キャンパス「ミドルブリッジ」開校(4月) ●専門職大学院戦略経営研究科ビジネス科学専攻博士課程後期課程開設(4月) ●韓国延世大学との創立125周年合同企画「剣道交流試合」(5月) ●「湧水保全を中心とした多摩キャンパスの生態系とビオトープの確立」連続シンポジウム(6月～2011年11月) ●留学生OB・OGによる国際シンポジウムと交流会(6月) ●中央大学「大メコンプロジェクト」国際シンポジウム in ハノイ(8月) ●学生会体育連盟ボート部戸田艇庫竣工(9月) ●国際シンポジウム「韓国延世大学ロースクールとのシンポジウム」(9月) ●中大OBトークショーリレー、125周年記念レガッタ等学生企画行事(10月～12月) ●(学生会体育連盟スモールボア射撃場竣工9月) ●図書館国際シンポジウム、「法学百科事典コレクション」記念展示(10月～11月) ●総合政策学部英文学術書刊行(10月) ●理工学部学術・研究交流会(11月) ●法律系4部局合同・連続公開シンポジウム(11月) ●中大リレーマラソン(11月) ●英吉利法律学校寛書「明治期のイギリス法教育」刊行(11月) ●学術連盟記念講演会(11月) ●ビジネススクール国際シンポジウム(11月) ●(多摩キャンパス正門からの道路改修・整備11月) ●(創立125周年記念式典11月) ●学生会文化連盟音楽研究会管弦楽部・混声合唱部による市民・卒業生とのベートーベン交響曲第九演奏合唱会(12月) ●式典報告と感謝のつどい(熊本、札幌、大阪、名古屋、金沢、仙台、広島、東京)(12月～2012年5月)        	●ビジネススクール国際シンポジウム(2月) ●(125ライブラリー第1期刊行3月～) ●(学生会体育連盟ヨット部葉山寮建て替え4月) ●学生会体育連盟南平寮改修(7月～) ●(後楽園キャンパス新2号館竣工8月) ●(中大学附属高等学校第2体育館竣工10月)

※1999年理工学部創立50周年記念シンポジウム、記念式典、記念誌発行、記念講演会(5月～11月)

世界で活躍する 高度専門職業人教育の拡充及び その教育拠点となる都心キャンパスの整備

市ヶ谷キャンパス

建築面積:2,625.555㎡ 延べ床面積:16,674.5㎡
地下1階、地上10階、塔屋1階

1999年12月に旧アジア経済研究所庁舎を取得し、2000年4月から主として、文系大学院（その後、2010年3月までは後楽園キャンパスで展開）の社会人教育を行うとともに、法職講座市ヶ谷研究室を設置して、司法試験受験者の勉強施設に供してきました



市ヶ谷田町キャンパス「ミドルブリッジ」

建築面積:1,132.08㎡ 延べ床面積:7,818.47㎡
地下1階、地上15階

2009年8月に市ヶ谷田町にビルを取得、2010年4月に新キャンパスとして開校しました。入居機関は、国際会計研究科、後楽園キャンパスから移転した公共政策研究科と文系大学院、新司法試験を受験する法務研究科生の施設と図書室です。中央大学のあらゆる情報が入手できる総合案



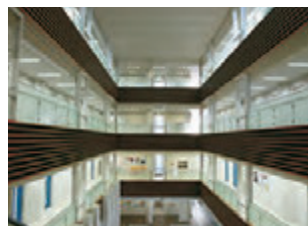
が、2002年4月の専門大学院国際会計研究科の開校（2003年に専門職大学院へ改名）並びに2004年4月の専門職大学院法務研究科の開校により、専門職大学院の育成拠点として特化されました。最近では、2010年4月より国際会計研究科が市ヶ谷田町キャンパスで新たな展開を開始することとなり、市ヶ谷キャンパスは、現在、法務研究科の専用施設としての教室環境を整えて、多彩で充実した授業を展開中です。

理系学部・大学院の教育研究体制の 一層の充実、世界レベルの研究交流、 産学官共同研究開発の推進

後楽園キャンパス新3号館

建築面積:1,901.91㎡ 延べ床面積:19,288.69㎡
地下2階、地上14階、塔屋1階

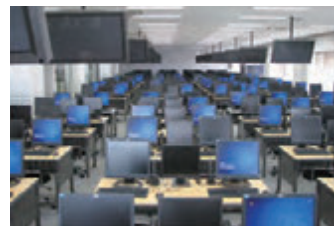
今日的な研究・教育の機能を有する「中央大学の都心におけるシンボルタワー」として「理工学部・大学院理工学研究科・理工学研究所の研究・教育の一層の充実、世界レベルの研究交流、産官学共同研究のダイナミックな推進、文系・理系の総合的な研究・教育体制の充実」のために建設しました。現在、情報工学



後楽園キャンパス新2号館

建築面積:1,911.2㎡ 延べ床面積:17,359.3㎡
地下1階、地上9階、塔屋1階

新2号館は今後のさらなる教育環境の充実や、高度化する教育研究活動を展開していくために、旧2号館を新たな場所に建て替えたキャンパスの顔となる建物であり、次世代の教育・研究を支援する施設設備を備え、理工学部都市環境学科、精密機械工学科、生命工学科及び中央大学高等学校専用の教室・アリーナ、人間総合理工学科（2013年開設予定）などを設置しています。



科、情報教育研究センター、大型実験施設、中央大学高等学校および外部との共同研究・受託研究等の関連施設、大学院戦略経営研究科等を設置し、理工系の学問分野の展開と、社会人、大学院生、大学生、高校生等幅広い世代が利用しています。また、1階アトリウム内には、竣工を記念して、理工学部全学科の同窓会から寄贈いただいた、高さ4メートルの時計モニュメントを設置しています。

今後数十年間にわたり常に高いパフォーマンスと利用効率を発揮するために、より高い耐震性を担保すると同時に、内部は可能な限り柱をなくすことで研究内容の変化に応じて容易に間仕切りが変更できるフレキシビリティを確保しており、外観デザインもテラコッタルーバーという特殊素材を用い、建物のグレード感と近隣への配慮の両立をはかる等、様々な技術的工夫や省エネルギーへの配慮をし、建設に伴って伐採された樹木を再利用したベンチや新たな試みを加えたアメニティーなど、継承と創造を表現した施設となっています。

学生のキャンパス生活と 課外活動の充実・強化

学生生活関連施設「Cスクエア」

建築面積:3,025.13㎡ 延べ床面積:8,244.6㎡
地上5階

学生からの長年の要望を基礎に作成した「学生生活関連施設（新棟）の具体的な規模案」を原点に置き、建設を推進した施設です。本施設の設計にあたっては、学友会公認のサークルに所属する学生のみならず、中央大学のすべての学生の活動の場となることを第一義としましたが、モノレール駅からの動線に隣接するという立地条件を活かすべく、地域住民を含む大勢の来訪者による利用をも視野に入れた仕様となっています。施設面

では太陽光発電等地球環境にやさしいという特徴の他、周辺環境との調和を図るエントランスをはじめ、内部諸空間、諸施設設備に至るまで、人が寛げるアメニティー空間としての配慮が施されており、持続的な文化活動の発信源となりうる施設として十分な条件を備えています。「C」は中央大学のC、キャンパスのC、コミュニケーションのC、そしてサークルのCなど、本施設を象徴するものに共通する頭文字から採り、中庭を囲む各階の周り回廊は、学生諸君が同一時間・同一空間を分かち合う場所として有効であり、中庭すなわち四角い広場Squareは、平面的にも立体的にも活かされた空間になることを願い、Cスクエアと名付けました。



国家試験に挑戦する学生に対する 教育・支援体制の強化、 国家試験に強い本学伝統の更なる発展

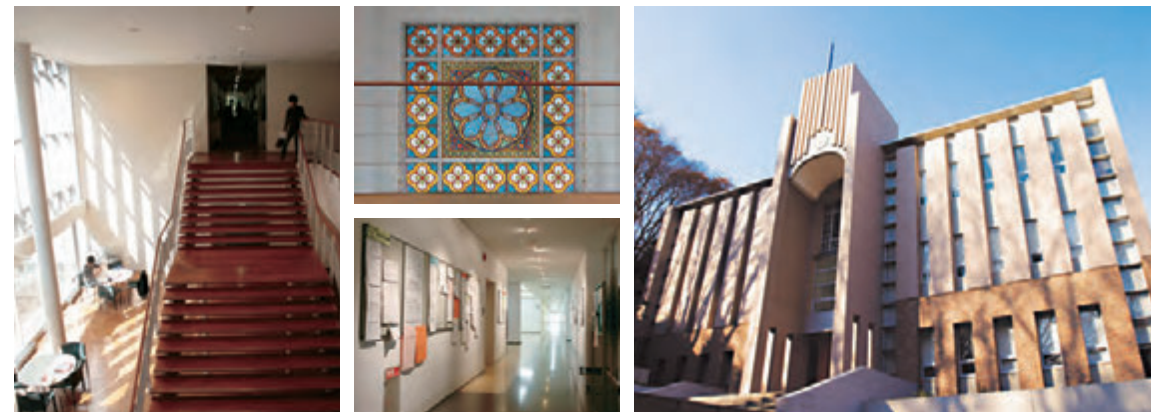
学生研究棟「炎の塔」

建築面積:2,163.34㎡ 延べ床面積:5,510.00㎡
地下1階、地上3階

この建物は、志を高く揚げ、最難関の国家試験合格を跳躍台とし、国際社会において活躍する人材になろうとする学生のために特別の勉学環境を整備することを目的として建設したもので、旧駿河台大学院図書館正面の塔のフォルムを新たな施設のシンボルとしてデザインに取り入れ、同図書館で使用されていたステンドグラスも正面に飾り付けられています。

正式名称は多摩学生研究棟で、時流に迎合しない批判精

神、経験と実際の重視、学問の研鑽と人格の陶冶を重視する全人教育、先輩が後輩の面倒をみながら互いに切磋琢磨し合うという伝統を継承しつつ、学生諸君がこの棟に結集し、難関の国家試験の克服に向け、不動の決意のもと、炎のように燃える情熱をこめて当たるよう、「炎の塔」と命名されました。法職講座や国家試験受験団体専用室、通信教育部の教室、学術研究団体連合会専用室、経理研究所等があり、学生の勉学スペースには、一人ずつゆとりを持たせ、静かな環境を確保すると同時に、持ち運びのできるラップトップパソコンを学内LANに接続し、資料の閲覧等ができるようになっています。



各学部・大学院教育等に対する支援体制の強化と文化・スポーツ活動の充実

学友会体育連盟東豊田寮

建築面積:601.95㎡ 延べ床面積:2,045.89㎡
地上5階

スポーツ振興のために、輝かしい伝統をもつ特定の体育部に対する特別な支援活動として、体育連盟に所属する学生の生活環境の充実を図ることを目的に、既存の南平寮と同等の趣旨で建設した陸上競技部学生用の新たな施設で、東京箱根間大学駅伝競走をはじめとした常勝チーム作りの拠点となっています。5

階建ての1階は、80人が入れる食堂・ミーティングルームと、各種マシンを備えたトレーニングルーム、マネージャールーム、浴室などがあり、2～5階の寮室は2人一部屋、長距離部員が2、3階に、短距離部員が3階の一部と4階に入居しています。4階には学習室があり、勉学環境が完備されています。このほか2階には監督室、コーチ室があり、中央大学を目指す高校生等の見学者が宿泊できる畳敷きのゲストルームが設置されています。



社会に開かれた大学づくりの推進と大学と社会の交流拠点となる モノレール駅前「グリーンテラス」建設 及び「21世紀館（仮称）」の建設

グリーンテラス・白門プロムナード

建築面積:3,609.25㎡ 延べ床面積:4,537.89㎡
グリーンテラス:地下1階、地上3階、白門プロムナード:地上1階

白門プロムナードは、従来、高架式のモノレール駅から一旦地上へ降りて入構するという人の動線を、モノレール駅からキャンパスへフラットにアクセスできるように建設したもので、中央大学の新しい玄関口として、2000年1月のモノレール開通以来、来校者の

8割以上の動線となっています。夜になると美しくライトアップされるグリーンテラスには、キャリアセンター、エクステンションセンターが入居しており、多摩キャンパスの総合案内所としての「Visitor Information Center」では、来訪者への総合的な情報提供を行っています。

併せて、この3階エントランスホール内には、ご寄付をいただいた方々の芳名を掲載した銘板を仮設置しています。



21世紀館（仮称）

学部教育の拠点である多摩キャンパスと後楽園キャンパスは、未来に羽ばたく若者たちが知的基礎体力と母校愛を育むホームランドです。多摩のホームランドに、中央大学の過去・現在・未来を結ぶ複合施設「21世紀館（仮称）」を建設します。

これまで種々の組み合わせの可能性を検討してきましたが、中央大学の思想が十分に生かされることが重要です。建学の理想を知り、各界で活躍した先人の軌跡をたどり、中大スポーツの栄光を伝える、本学127年の歴史を視覚的に訴えるアーカイヴであり、同時に、本学の研究・教育の成果を世界に向けて発信する

施設として、1つは、中央大学の歴史と学員の歩みを確認し、学内外の力の結集・強化を図ることを目的に、これまでの本学に無かったアーカイヴの機能を有効に活用して、研究・教育の発展を支援し、その成果を内外に発信する「歴史館（仮称）」を、2つは、学友会体育連盟には、創部100周年を超える伝統を有する部があり、その伝統を守りながら発展させ、極めて優れた成果と実績を維持してきました。これらのチームや選手を顕彰し、スポーツを通じて「オール中央」の繋がりをさらに強めるための「白門スポーツ殿堂館（仮称）」を決定しており、これらと複合的に関係する構成の在り方を再点検しております。

東日本大震災被災学生への奨学金募金

本学は、2011年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による被災学生への支援として、学費の全額ないし半額または入学金に相当する奨学金（2011年度約4億2千万円を給付し、2012年度は2億9千万円の経済援助奨学金を支援予定）を給付しております。この奨学金支援には、多くの皆さま方からの共感と

ご賛同をいただき、約1億4千5百万円のご支援を賜りました。このご寄付は経済援助給付奨学金の原資とさせていただきます。なお、給付奨学金により勉学環境を維持している学生は、全壊40名、大規模半壊1名、半壊119名、一部損壊423名、原発避難3名、収入喪失5名の計591名にのぼっています。

中等教育との連携

本学は、全国の高等学校との間で推薦による入学選抜を行う指定校制度を導入しておりますが、附属の高校を持つ各私立大学が、中・高一貫教育に対応すべく附属の中学校を設置し、種々の社会的・教育的ニーズに応えるようになっている中、中・高一貫教育を整備・充実する必要があるとの判断から、中・高一貫教

育体制の整備に着手しました。このことにより、創立125周年記念事業の一環として目指していた、高等学校との連携強化はもとより、中学・高校・大学・大学院または専門職大学院へと進む教育体制の基盤作りを実現することができました。

中央大学附属中学校

全国的に中学校から高等学校への進学率が9割を超える状況で、中等教育6年間の柔軟かつ合理的な一貫教育の必要性が認識される中、法改正により中学校と高等学校とに分離されていた教育課程の規制がある程度緩和されるようになったこと

から、中・高一貫教育が実施可能となったため、中央大学附属高等学校の基幹生徒となり、さらには中央大学の基幹学生となる生徒を育成するために、2010年4月、中央大学附属高等学校（東京都小金井市）の隣接地に附属中学校を開校しました。

中央大学横浜山手中学・高等学校

附属学校拡充の対象地域としては、東京都の近県が望ましく、人口第2位、本学の受験者数第2位である神奈川県は、学生募集活動上、東京に次ぐ重要拠点であり、父母の教育に対する関心がたいへん高い地域でありながら、横浜には有力大学の附属校が少なく、高校は公立中心の風土が強いという特徴があります。中央大学の進出は、こうした現状に新風を吹き込む契機となると同時に、学校選択の機会が広がることになるため、横浜山手女子中学校・高等学校が中央大学の附属校になることに対する潜在的な期待は非常に大きいものでありました。神奈川・横浜の

地において、中央大学の存在感を高め、中央大学の中核となるに相応しい良質な生徒を育成することを目指して、2010年に、横浜山手女子学園との法人合併により4番目の附属校としてスタートしました。2010年2月には、環境整備を目的とした校地・校舎移転計画に基づき横浜市都筑区に校地を取得し、校舎建設に着手しました。2012年度からは中学の男女共学化を開始し、2013年度には新校地・校舎へ移転、2014年4月からは高等学校を男女共学化して、大学の基幹となる生徒を育成することとなります。

